

平成 25 年度高知大学教育学部学校教育教員養成課程 フレンドシップ事業計画（案）

◆4年間一貫した実習系授業とフレンドシップ事業

高知大学教育学部学校教育教員養成課程では、“実践的指導力”をもった教員を養成するべく、「4年間一貫した実習系授業」というカリキュラムを設けており、これは学校教育現場での実習を軸として構成されるものである。

学 年	授業名	必修/選択	主な内容	目 的	ご協力先
1 年 生	フレンドシップ 事業	必修	ボランティア活動 レクリエーション活動	子ども理解、子どもとのコミュニケーション能力の育成	高知市青少年育成協議会、高知市教育委員会青少年課、小学校
2 年 生	観察実習	選択	学級活動参観 授業参観	教育現実の理解、それを考察する観点の修得	附属校園
	支援実習	選択	学校行事支援 授業参観	子どもとのコミュニケーション能力の向上、実践的指導力の育成	県中山間地域等の小規模校
3 年 生	教育実習 ※特別支援教育実習は4年次	必修	教科指導 児童生徒指導 教育実務	学んだ理論・技術の適用・検証、自らの課題の発見、教職適性の検討	附属校園
4 年 生	応用実習	選択	教科指導、児童生徒指導 教育実務 地域との連携活動	自らの課題の克服、実践的指導力の向上	県内の公立小・中学校、附属校園

フレンドシップ事業は、教員を目指す高校を卒業したばかりの1年生全員が受講する必修授業であり、「4年間一貫した実習系授業」の最初にあたるものである。これまでずっと教えられる立場にあった学生たちが、教える立場へと転換していく第一段階として、“子ども理解”と“子どもとのコミュニケーション能力の育成”とを目的としている。

◆フレンドシップ事業を通して実践してみる

- ①一人一人の児童の特徴や性格を知るだけでなく、それぞれの年齢における児童の特性を知ろう。そして、どのように接すればいいか考えていこう。
- ②本授業にかかわってお世話になる団体の方々に対して感謝の気持ちで接すると共に、社会人としての振る舞い方を身につけよう。
- ③自分の役割を果たすだけでなく、共に活動する仲間と助け合う態度を身につけよう。日常的にグループ内での連絡を密に取ろう。
- ④時間に余裕を持って行動すること、提出物を早めに届けることなど、先を見通した行動を心がけよう。

◆フレンドシップ事業の内容

- ①全体オリエンテーション
- ②環境ボランティア活動
- ③地域・学校ボランティア活動
- ④シンポジウム
- ⑤実施報告書

①全体オリエンテーション 4月上旬

本授業の全体像を把握する。本課程のカリキュラムにおける本授業の位置づけ、本授業の目的・目標・内容・方法等について確認する。本授業は、教育実習と同じく「実習」であり、学生の主体的な活動が中心となる。

②環境ボランティア活動 6月 浦戸小学校区、長浜小学校区、五台山小学校区
7月 大津小学校区、介良小学校区、旭小学校区

6 校区青少年育成協議会及び小学校のご協力を得て、午前中に小学校等にて、児童とともに清掃活動及びレクリエーション活動を行う。事前打合せ、活動場所の下見、参加児童募集のチラシ作成・配付・回収、活動の企画・準備を経て、当日に臨む。

③地域・学校ボランティア活動 11月

校区青少年育成協議会 Aブロックとの共同事業として実施する。Aブロック校区の児童約 300 名を本学に招いて、午前・午後にわたって、モノづくり活動及びレクリエーション活動を行う。環境ボランティア活動についての省察を踏まえて、活動に臨む。

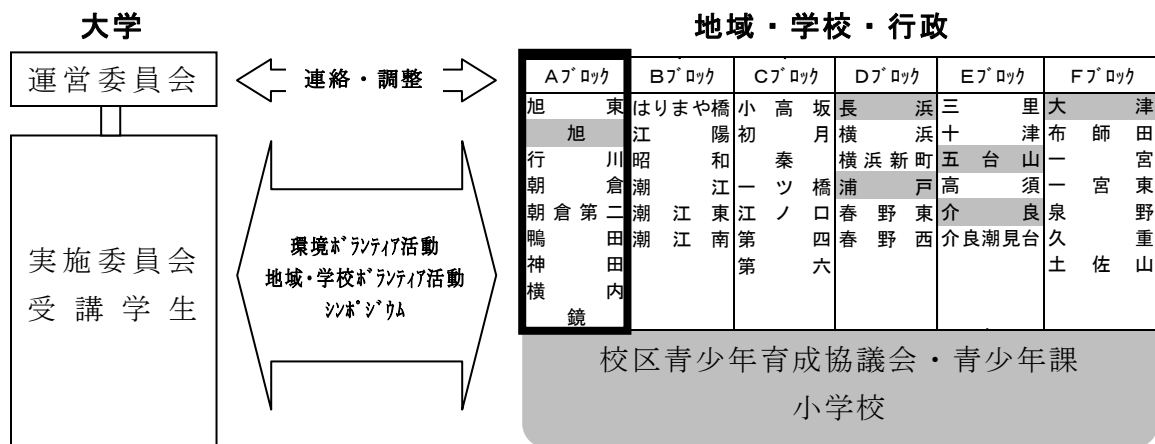
④シンポジウム 12月

本事業の目的・目標を念頭に、実施した諸活動について改めて省察し、得られた成果や課題を報告する。学外関係協力機関の方々にもご出席いただき、質疑応答を重ねる。これを以って、今後の実習系授業や他授業に臨む準備をする。

⑤実施報告書 3月発行

今後の省察のための道具の一つとして「実施報告書」を作成する。これはまた、後輩への引継書の役割も果たす。原稿は、実践センターHPにも掲載する。

◆フレンドシップ事業の実施体制



※環境ボランティア活動は 6 校区青少年育成協議会のご協力を得て実施

※地域・学校ボランティア活動は A ブロックとの共同事業として実施